

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																						
専門学校社会医学技術学院		昭和48年3月31日		浅沼 辰志		〒184-8508 東京都小金井市中町2-22-32 (電話) 042-384-1030																						
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																						
学校法人日本リハビリテーション学園		平成31年4月1日		山田千鶴子		〒184-8508 東京都小金井市中町2-22-32 (電話) 042-384-1030																						
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																					
医療	医療専門課程		理学療法学科			平成7年1月23日文部科学省告示第7号	なし																					
学科の目的																												
1年次から早期の臨床見学実習を配置し、2年次からは「老人保健施設」における実習も取り入れ、低学年から様々な臨床現場を体験させるなど、就職先の現場で即戦力となる人材を育成する。																												
認定年月日																												
平成26年3月31日																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	3120時間	900時間		960時間	900時間	0時間	360時間																				
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数	総教員数																			
210人		206人		0人		8人		24人	32人																			
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日 ■3学期:				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学科試験により授業目標の達成度を評価し、学習態度及び出席状況等を総合して行う。																						
長期休み	■学年始: ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月21日～3月31日				卒業・進級条件	各学年所定の授業科目のすべてに合格した者は進級又は卒業を認める。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席が授業回数の1/3を超えた者は評価を受けることができないが、欠席の理由がやむを得ないと認められ、科目の補填が可能な場合に限り、教育会議の議を経て評価を受けることができる。				課外活動	■課外活動の種類 自治会活動(体育祭実行委員、文化祭実行委員)、近隣施設の車椅子修理、高齢者の体力測定 ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) 病院(国立病院機構・公立・大学・一般)、老人保健施設など ■就職指導内容 就職説明会の実施、履歴書の書き方指導、担任教員による個別相談・指導 ■卒業者数 66 人 ■就職希望者数 64 人 ■就職者数 64 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 97 % ■その他 進路未定: 2名 (令和4年度卒業者にに関する 令和5年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者にに関する令和5年5月1日時点の情報) <table><tr><td>資格・検定名</td><td>種</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>理学療法士</td><td>②</td><td>66人</td><td>64人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ※種類の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士	②	66人	64人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																									
理学療法士	②	66人	64人																									
中途退学の現状	■中途退学者 8 名 令和4年4月1日時点において、在学者218名(平成4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者210名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更、学業不振など ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等(担任教員による面談や保護者との連携、また臨床心理士による心のケアなどを行っている) クラス担任による半期に一度の定期面談と、学修状況の変調や学生からの希望があった際、随時面談を実施。面談内容は、学修不安、経済的・家族の状況、就業を含めた生活状況など多岐にわたる。進路に悩む場合には、学業、経済面、その他において支援し得る手立てを可能な限りアドバイスする。																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的に就学困難な最終学年を対象とした給付型奨学金制度(1人10万円) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																											
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 評価団体:一般財団法人リハビリテーション教育評価機構 受審年月:2020年3月 評価結果:適(基準をほぼ満たしている) 評価団体:私立専門学校等評価研究機構 受審年月:2020年4月 評価結果:可(全ての評価基準を満たしている)																											
当該学科のホームページURL	http://www.sigg.ac.jp																											

(留意事項)

1。公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2。就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3。主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

(留意事項)

1。公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2。就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3。主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
理学療法士・作業療法士育成のための教育課程の編成・改善にあたり、以下の方針で病院・施設等と密接に連携する。
(1)常に進歩・変化していく現場のニーズを、いち早く教育に取り入れる。
(2)全ての教育課程を臨床実践力として結実させる。
(3)臨床実習により役立つよう学内授業を工夫する。
(4)学内授業がより役立つよう臨床実習を工夫する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

・本委員会は学院長の直轄機関として、社会医学技術学院の委員会組織として位置づけるものである。
・本委員会の意見は学内の教務委員会及び各学科会議、さらに教育会議で審議されたのち、学院長の許可を経て決定し、科目内容に反映させている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
大久保孝彦	八王子保健医療生活協同組合 代表理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
小川 克巳	公益社団法人日本理学療法士協会理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
小林 賢	慶應義塾大学病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
濱田 賢一	元 武蔵野中央病院 作業療法士	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
下岡 隆之	東京都作業療法士会 教育担当理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②
黒澤 和生	川口きゆうぼろリハビリテーション病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
鈴木 憲雄	昭和大学 保健医療学部	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
山田 隆介	一般社団法人TMG本部	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
浅沼 辰志	(専)社会医学技術学院 学院長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
帯刀 隆之	(専)社会医学技術学院 副学院長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
小島 肇	(専)社会医学技術学院 理学療法学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
河野 達哉	(専)社会医学技術学院 作業療法学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催。令和4年度は7月と3月に実施。

(開催日時(実績))

第18回 令和4年7月28日 18:30～20:30(WEB開催)

第19回 令和5年3月31日 18:30～20:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

時代は少子高齢化がますます進展し、多死社会を迎えようとしている。理学療法士の役割も病院等の医療機関に留まることなく介護保険分野など多様な広がりを見せている。このような時代の変化に対応できることが求められる。個別の技術論に偏ることなく、本来の使命である対象者の生活能力の回復を目指せるような教育内容の整備をする必要がある。卒業生の就業先では各専門基本技術の修得に並んでコミュニケーション能力についてもニーズが高い。これらの提言を受け、当面各科目内で個別的な教育目標の追加・整備を行った。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

臨床実習

- (1) 学内学習を臨床で正しく応用・統合する。
- (2) 実習に必要な基礎学習の不足を本学へフィードバックする。
- (3) 学生の個性が学習に生かされるよう実習施設と本学と個々に連携する。

学内実習・演習

- (1) 最新の知見をより実践的に学習するため適宜外来講師を招聘する。
- (2) 臨床実習での応用がより円滑になるように適切な「臨床実習指導者」を招聘する。
- (3) 上記の目的で「臨床実習指導者」と意見交換を行い、実習・演習に活用する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・臨床実習により、実務を想定した実習環境の提供を受ける。
- ・実務を想定した症例の検査・測定を実施する。
- ・実務指導者による実技指導を受け、また検査結果の解釈方法については座学指導を受ける。
- ・実務での要求レベルを踏まえ学修到達目標についての助言を受け学内学修の参考とする。
- ・目標到達水準について実務指導者と協議し学修成果の評価を行う。
- ・実務指導者を学院に招き臨床実習についての打ち合わせ・検討会議を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床見学実習	理学療法士としての役割を知り、今後の学習意欲を高めるために、臨床現場の見学実習を通じて理学療法士の専門性を学ぶ。	病院・福祉施設等
臨床実習Ⅰ	地域包括ケアシステムを理解し、信頼性のある検査測定技術を研さんするために、地域リハビリテーション現場を見学することと検査測定技術を対象者に応用する。	病院・福祉施設等
臨床実習Ⅱ	2年間の総復習を図るために、情報収集、検査測定、臨床推論、治療プログラム立案の一連の評価過程を実習する。	病院・福祉施設等
臨床実習Ⅲ－A	各理学療法の理論と実践を最終的に統合し、指導者の助言のもと、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになる。理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身に着ける。	病院等
臨床実習Ⅲ－B	実習Ⅲ－Aで学修した成果を踏まえ、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになる。理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身に着ける。	病院等

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

専門分野領域や就業先が求める実務知識や効果的指導方法を習得し、教育内容や指導方法に反映することを目的とし、「職員の研修（講習）会等の参加に係わる承認基準について（内規）」及び、2019-2023年度中期事業計画の中の重点目標、及び具体的施策の教育の質の向上、教員の教育力の向上の項目に基づき、教職員の研修参加を促している。また、学内委員会の一つであるFD委員会が、月1回の教育力の向上を目指した研修会を学内で実施している。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

日 時：2022/5/22

研修名：第22回認定訪問療法士 基礎研修会

主 催：一般財団法人日本訪問リハビリテーション協会

場 所：WEB開催

参加者：長屋説

内 容：認定訪問療法士の基礎知識と技術の取得

日 時：2022/6/23、24

研修名：第59回日本リハビリテーション医学会学術集会

主 催：公益社団法人日本リハビリテーション医学会

場 所：パシフィコ横浜

参加者：小島肇

内 容：テーマ「知と実践のプロフェッショナル」

日 時:2022/8/30-9/1
研修名:第27回バイオメカニズム・シンポジウムin 浜名湖
主 催:バイオメカニズム学会
場 所:THE HAMANAKO(静岡県浜松市)
参加者:福田 崇
内 容:バイオメカニズム研究に関する最新知見

日 時:2022/9/3、4
研修名:第6回日本循環器理学療法学会学術集会
主 催:日本循環器理学療法学会
場 所:東京保健医療専門職大学／WEB開催
参加者:林 佑樹
内 容:シンポジウム「回復期病棟における循環器理学療法」等

日 時:2022/9/10、11
研修名:第41回関東甲信越ブロック理学療法士学会
主 催:公益社団法人日本理学療法士協会
場 所:日本教育会館／WEB開催
参加者:小宮山一樹、山形哲行
内 容:「理学療法士自身のレジリエンスを高める方法」等

日 時:2022/9/23
研修名:第8回日本呼吸理学療法学会学術大会
主 催:東京保健医療専門職大学
場 所:WEB開催
参加者:林 佑樹
内 容:「呼吸を詠む」「呼吸理学療法と倫理」等

日 時:2022/10/15、16
研修名:第20回日本神経理学療法学会学術大会
主 催:日本神経理学療法学会
場 所:大阪府立国際会議場／WEB開催
参加者:沼尾 拓、山形哲行(ポスターセッション・座長)
内 容:テーマ「我々は何者か、どこに向かうのか 決別と融和、そして創発へ」

日 時:2023/3/16
研修名:協会指定管理者研修(上級)
主 催:公益社団法人日本理学療法士協会
場 所:WEB開催
参加者:坂田晋一
内 容:地域理学療法に関連する多様な学びを修得する

②指導力の修得・向上のための研修等

日時 : 2022/5/13
研修名:教育ITソリューションEXPO
主催 : (株)リードエグジビションジャパン
場所 : 東京ビッグサイト
参加者:和島英明、小島肇
内容 : 教育ITに関わるツールや教材の展示と最近の動向について情報収集と講演会の受講

日 時:2022/10/7
研修名:第49回国際福祉機器展
主 催:全国社会福祉協議会
場 所:東京ビッグサイト
参加者:和島英明
内 容:最新福祉機器に関する情報収集

日 時:2023/1/12-25
研修名:令和4年度労働法教育に関する支援対策事業
主 催:厚生労働省委託
場 所:WEB開催
参加者:和島英明
内 容:労働法の教え方等

日 時:2022/4/28
研修名:FD勉強会「報告 高校訪問」
主 催:学院FD委員会
場 所:学内
参加者:全教員
内 容:実施状況等

日 時:2022/5/26
研修名:FD勉強会「報告 学生相談室」
主 催:学院FD委員会
場 所:学内
参加者:全教員
内 容:学生相談室の利用状況等

日 時:2022/7/28
研修名:FD勉強会「報告 ITソリューション」
主 催:学院FD委員会
場 所:学内
参加者:全教員
内 容:「ITソリューション」参加報告会

日 時:2022/9/22
研修名:FD勉強会「最新の学習環境」
主 催:学院FD委員会
場 所:学内
参加者:全教員
内 容:教育現場におけるICT環境について

日 時:2022/10/27
研修名:FD勉強会「合理的配慮」
主 催:学院FD委員会
場 所:学内
参加者:全教員
内 容:障害学生への学習上の対応

日 時:2022/11/24
研修名:FD勉強会「シラバス作成」
主 催:学院FD委員会
場 所:学内
参加者:全教員
内 容:シラバス作成に関する注意事項

日 時:2022/12/22
研修名:FD勉強会「ハラスメント」
主 催:学院ハラスメント対策委員会
場 所:学内
参加者:全教員
内 容:最近の話題とその対応

日 時:2023/1/26
研修名:FD勉強会「反転授業」
主 催:学院FD委員会
場 所:学内
参加者:全教員
内 容:反転授業の内容と実例紹介

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

日 時: 2023/5/2－16、22
研修名:第22回認定訪問療法士 基礎研修会
主 催:一般財団法人 日本訪問リハビリテーション協会
場 所:オンラインおよびリアルタイム研修
参加者:長屋説
内 容:「訪問リハビリテーションにおける医療・介護制度の理解」等

②指導力の修得・向上のための研修等

日 時:2022/5/13
研修名:第13回教育ITソリューション/EXPO
主 催:株)リードエグジビションジャパン
場 所:東京ビッグサイト
参加者:和島英明
内 容:情報収集など

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校運営について就職先委員等を含む7名の委員により以下に関する意見を求める。
①学院の教育目標、教育方針、教育計画に関すること ②教育活動の実施に関すること ③学院と地域の連携の進め方に関すること ④その他本学院の学校運営に関すること

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3)教育活動	目標の設定、教育方法・評価等。成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4)学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、保護者と連携、卒業生・社会人
(6)教育環境	施設・設備等、学外実習・インターンシップ等、防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、監査
(9)法令等の遵守	関係法規、個人情報保護、学校計画、教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献、ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

令和4年度実施した学校関係者評価結果に基づき、以下の主な意見を聴取し参考にした。①めざすべき人材の育成についての意見 ②理念や方針にかなない、社会情勢の変化に対応した学校運営についての意見、③増加傾向にある学生相談室利用学生への対応についての意見、④入学応募者を確保するための方策についての意見、⑤ハラスメント対策についての意見、⑥地域貢献に関する意見 など

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
田村 浩子	小金井市保健福祉部 介護福祉課 包括支援係	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	自治体
濱野 智徳	濱野公認会計士事務所	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	地域
西本 典良	医療法人コマクサ会虹の森	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生
大関 健一郎	帝京科学大学医療科学部 作業療法学科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	関係業界
岩谷 清一	永生会 永生病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	実習地
大石 洋人	河北医療財団 多摩事業部 天本病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	就職先
森川 美智恵	聖パウロ学園高等学校	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	高校教員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

<https://www.sigg.ac.jp/corporate/pdf/assessment2023.pdf>

公表時期: 令和5年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠し、毎年「自己点検評価、学校関係者評価」を実施する。評価結果を学校ホーム

ページで公開するとともに年次ごとに更新を実施している。また、「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に準拠し、公開を求められているすべての項目について学校案内、学生募集要項、学校ホームページのいずれかによって情報提供

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、沿革、教育理念等、行動目標
(2)各学科等の教育	定員、在校生数、カリキュラム、資格取得率、卒業生数、就職率、求人数
(3)教職員	常勤職員数、非常勤職員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	臨床実習の概要
(5)様々な教育活動・教育環境	入学式、三科合同行事、体育祭、文化祭、卒業式
(6)学生の生活支援	学生相談室
(7)学生納付金・修学支援	納付金
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書、第三者評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法 ホームページ

<https://www.sigg.ac.jp/corporate/info/index.html>

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科昼間部) 令和5年度																
分類				授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	講 義						演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○			基礎力養成講座	医療専門職としての基本的な社会人基礎力を習得する	1前	30	2	○			○			○	
2	○			情報社会と情報リテラシー	私たちの生活を取り巻く情報社会の現状を理解し、正しい情報収集方法、情報の吟味、情報セキュリティ、また情報を取り扱うスキルとマナーなどについて理解する	1前	30	2	○			○			○	
3	○			バイオメカニクス	人間の身体運動を物理学の側面から学習する	1前	30	2	○			○		○		
4	○			医療コミュニケーション論Ⅰ	患者家族と適切なコミュニケーションを図るために、コミュニケーションの本質を学び、基本的な人間関係のあり方、関係構築の方法を習得する	1前	30	1		○		○		○		
5	○			医療コミュニケーション論Ⅱ	医療人として対象者や他職種との信頼関係を構築し、適切な情報収集や理学療法評価のために、医療現場におけるコミュニケーション能力を習得する	2前	30	1		○		○		○		
6	○			問題解決のための研究法	生涯にわたって科学的、論理的思考力を発展し続ける自己調整学習の習慣を養成するために、問題解決のための研究法を学ぶ	3前	30	2	○	△		○		○		
7	○			生命倫理学	プロフェッショナルの基礎としての人間性を涵養するために、生命倫理的課題を多角的に検討し、生命の尊厳について深く考察する	1前	30	2	○			○		○		
8	○			現代社会と社会保障	地域包括ケアシステムを理解するために、社会保障制度を歴史的に理解し、医療制度、社会福祉制度、健康・介護保険制度を学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
9	○			解剖学Ⅰa	解剖学のうち、筋骨格系について学習する	1前	60	3	○	△		○			○	
10	○			解剖学Ⅰb	解剖学のうち、消化器系、感覚器系について学習する	1後	60	3	○	△		○			○	
11	○			解剖学Ⅱa	人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、神経系について学ぶ	1前	30	2	○			○			○	
12	○			解剖学Ⅱb	人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、脈管系について学ぶ	1後	30	2	○			○			○	

13	○		生 理 学Ⅰa	人体の生命活動を理解するために、神経・筋活動を理解する	1 前	30	2	○			○			○	
14	○		生 理 学Ⅰb	人体の生命活動を理解するために、感覚機能、感覚と運動の相互作用を理解する	1 後	30	2	○			○			○	
15	○		生 理 学Ⅱa	人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、「体液・血液」、「心臓・循環」の機能、役割について学ぶ	1 前	30	2	○			○			○	
16	○		生 理 学Ⅱb	人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、「呼吸」、「排泄」、「代謝」、「体温」、「消化・吸収」、「内分泌」の機能、役割について学ぶ	1 後	30	2	○			○			○	
17	○		人間発達学	人間の発達を身体運動、対人関係、認知機能、言葉、人格の側面から学習する	1 後	30	2	○			○			○	
18	○		運 動 学Ⅰ	人体運動の表記、関節・筋の構造と運動、筋触診法について学習する	1 後	30	1		○		○		○		
19	○		運 動 学Ⅱ	歩行や移動動作等の人体の運動を分析するために必要な運動学的知識を学習する	1 後	30	1		○		○			○	
20	○		運動学演習	ヒトの運動を運動学的に理解するために、歩行を基に運動学の知識の応用を図る	2 前	30	1	△	○		○		○		
21	○		病理学概論	疾病の原因と、それによって生じる形態学的な変化を理解し、さらにどのような機能的障害が引き起こされるかを理解する	2 後	30	2	○			○			○	
22	○		臨床神経学	神経障害を生じる主な疾患の疫学や病態、症状や一般的治療について学ぶ	2 後	60	3	○			○			○	
23	○		整形外科学Ⅰ	整形外科疾患の概念・病態・症状・神経学的検査・診断と治療・予後等における一般的な整形外科的知識を理解する	2 前	30	2	○			○			○	
24	○		整形外科学Ⅱ	整形外科学の主要な疾患のリハビリテーションについて理解する	2 前	30	2	○			○			○	
25	○		臨床内科学Ⅰ	臨床内科学を理解するために、医学概論を理解した上で、主要な内科疾患について学ぶ	2 前	30	2	○			○			○	
26	○		臨床内科学Ⅱ	老年期と小児期を医学的に理解するために、老年学と小児科学について学ぶ	2 前	30	2	○			○			○	
27	○		疾病管理論	医療職である療法士として疾病予防とその管理を理解するために、栄養学、臨床薬学、救急救命医学を学ぶ	3 前	30	2	○			○			○	

28	○		リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の概念と各障害に対するリハビリテーション医学の概要について学習する	1後	30	2	○			○		○	
29	○		社会医学	医療職である療法士としてプライマリヘルスケアを理解するために、社会医学の概要について学ぶ	2前	30	2	○			○		○	
30	○		精神医学概論	精神疾患のある対象者を的確に理解し、理学療法を展開する上で、主な精神障害および疾病の症状、それに対する一般的な治療について学ぶ	3前	30	2	○			○		○	
31	○		臨床心理学	対象者の心理を理解するための検査法、ならびに心理治療の概要を学習する	1後	30	2	○			○		○	
32	○		臨床運動学	動作における問題点を抽出できるようになるために、理学療法評価における動作観察・分析の位置づけを理解し、健常者や患者の姿勢観察・分析、動作観察・分析の方法を理解する	2後	60	2	△	○	△	○		○	
33	○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史や理念、概要について学習する	1前	30	2	○			○		○	
34	○		保健医療福祉連携論	保健/医療/福祉の現場におけるチームワークの構築/目標達成のため、多職種連携とそのコンピテンシーを修得する	3前	30	2	○			○		○	
35	○		理学療法概論	望ましい理学療法士像を探究するために、理学療法の概要や評価・治療という一連の流れを理解し、医療従事者として必要な知識および職業倫理を身につける	1前	30	1	△	○		○		○	
36	○		理学療法演習Ⅰ	臨床見学実習の目標を達成するために、社会人・医療人としての立ち振る舞い、プロフェッショナリズムを実践的に学習し、体得できる	1前	30	1		○		○		○	
37	○		理学療法演習Ⅱ	地域リハビリテーション見学と検査測定実習の目標を達成するために、地域包括ケアシステムを概観し、かつ、検査測定技術を復習して、プロフェッショナリズムを実践的に学習し、事後に振り返りを図ること	2前	30	1		○		○		○	
38	○		理学療法演習Ⅲ	評価実習の目標を達成するために、評価技術/臨床推論/プロフェッショナリズムを実践的に学習し、事後に振り返りを図ること	2後	30	1		○		○		○	
39	○		理学療法演習Ⅳ	臨床実習で具体的な事例を通じてその適応を学ぶために、必要な最低限の知識・技術（基礎と代表的な疾患における）・態度を身に付ける	3前	30	1		○		○		○	
40	○		理学療法演習Ⅴ	臨床実習で具体的な事例を通じてその適応を学ぶために、必要な最低限の知識・技術（基礎と代表的な疾患における）を身に付ける	3前	30	1		○		○		○	
41	○		理学療法管理学	社会から求められる理学療法を提供し続けるために、理学療法士として職場管理において求められる管理業務の基本、理学療法士教育の基本について学ぶ	3前	30	2	○			○		○	
42	○		フィジカルアセスメント	理学療法評価学関連の科目に連動するために、解剖学、生理学、運動学に基づいたフィジカルアセスメントの必要性を理解し、そのスキルを習得する	1後	30	1		○		○		○	

43	○		理学療法評価学Ⅰa	理学療法学の総論をふまえた上で、信頼性のある理学療法評価を実施するために、姿勢・形態測定・関節可動域測定を習得する	1後	30	1			○	○			○	
44	○		理学療法評価学Ⅰb	理学療法学の総論をふまえた上で、信頼性のある理学療法評価を実施するために、徒手筋力検査を習得する	1後	30	1			○	○			○	
45	○		理学療法評価学Ⅱa	脳・神経機能を理学療法評価するための知識、技術について学習する	2前	30	1	△	△	○	○			○	
46	○		理学療法評価学Ⅱb	脳・神経機能を理学療法評価するための知識、技術について学習する	2前	30	1	△	△	○	○		○		
47	○		理学療法評価学Ⅲ	妥当な理学療法評価を実施するために、画像情報をはじめとする医学検査情報を解釈する	2前	30	1	△	○		○			○	
48	○		理学療法臨床推論	妥当な理学療法評価を実施するために、得られた情報を解釈・統合し、対象者の理学療法目標を達成する理学療法プログラムを立案するまでに至る推論過程を習得する	2後	30	1	△	○		○		○		
49	○		運動療法学	各理学療法治療学を発展させるために、理学療法の主要な治療法である運動療法を習得する	2前	30	1	△	○		○			○	
50	○		運動器系理学療法学	運動器系障害の対象者へ効果的な理学療法を実施するために、妥当な評価に基づいて理学療法プログラムを立案し、実施できる	2後	60	2	△	△	○	○			○	
51	○		中枢神経系理学療法学Ⅰ	脳外傷を含む脳血管障害の対象者へ効果的な理学療法を実施するために、妥当な評価に基づいて理学療法プログラムを立案し、実施できる	2後	60	2	△		○	○			○	
52	○		中枢神経系理学療法学Ⅱ	脳血管障害患者に対して理学療法を実施できるようになるために基礎的な治療技術を習得する	3前	30	1	△	○	△	○		○		
53	○		発達系理学療法学	発達系障害の対象者へ効果的な理学療法を実施するために、妥当な評価に基づいて理学療法プログラムを立案し、実施できる	2前	30	1	△	○		○			○	
54	○		神経筋系理学療法学	神経筋系障害の対象者へ効果的な理学療法を実施するために、妥当な評価に基づいて理学療法プログラムを立案し、実施できる	2後	30	1	△	○		○		○		
55	○		物理療法学Ⅰ	治療に用いられる主に温熱療法の適応方法についての知識、技術について学習する	1後	30	1		○		○		○		
56	○		物理療法学Ⅱ	治療に用いられる主に温熱療法の適応方法についての知識、技術について学習する	2前	30	1		○		○		○		
57	○		日常生活活動論	日常生活活動の評価、指導をするための知識、技術について学習する	2前	60	2	△	○		○		○		

58	○		日常生活活動論演習	日常生活活動論で学習した内容を演習形式で習得する	3前	30	1	△	○		○		○	
59	○		義肢装具学	義肢装具について種類、構造、適応についての知識と技術を学習する	2前	60	2	△	△	○	○		○	
60	○		義肢装具学演習	義肢装具使用による理学療法を知るために、模擬体験を通し理解を深める	3前	30	1	△	△	○	○		○	
61	○		内部系理学療法学	内部障害領域の理学療法治療を実施するために必要な知識、技術について学習する	3前	60	2	△	○	△	○		○	
62	○		高齢期理学療法学	地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解し、高齢者を対象とした理学療法評価や治療立案を実施できるようにするために、高齢者の特性や代表的な疾患について理解する	3前	30	1	△	○	△	○		○	
63	○		理学療法技術論	社会で求められる理学療法技術を習得するために、最先端の理学療法技術を学ぶ	3前	30	1	△		○	○		○	○
64	○		生活環境支援理学療法学	自立支援のために、車椅子・福祉機器・住宅改造・周辺環境を含めた内容を理学療法の観点から学ぶ	1前	30	1		○		○		○	
65	○		地域理学療法学	地域包括ケアシステムでの理学療法士の役割を果たすために、本システムへの理学療法の展開を学ぶ	2前	30	2	○			○		○	
66	○		臨床見学実習	臨床現場での理学療法士の役割を理解し、その後の学習への動機づけのために、臨床現場の見学を通じて、理学療法士の理解を深める	1前	45	1			○		○		○
67	○		臨床実習Ⅰ	学内で習得した検査・測定・知識・技術を臨床の場で応用するために、また地域リハビリテーションの分野を理解するために、指導者の指導のもと臨床現場で経験を深める	2前	90	2			○		○		○
68	○		臨床実習Ⅱ	症例に対する標準的な理学療法評価（検査・測定、統合と解釈、問題点抽出、目標設定等）を臨床の場で応用するために、指導者の指導のもと臨床現場で経験を深める	2後	##	3			○		○		○
69	○		臨床実習Ⅲ-A	各理学療法の理論と実践を最終的に統合、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになり、理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身につける	3後	##	7			○		○		○
70	○		臨床実習Ⅲ-B	各理学療法の理論と実践を最終的に統合、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになり、理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身につける	3後	##	7			○		○		○
合計				科目	3120単位時間(124単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。